

第 3 回 名城大学農学研究科とキングモンクット工科大学トンブリ校生物資源工学研究科との学術交流協定に基づく国際シンポジウム  
「日本とタイの持続的発展のための生物資源科学」

“Bioresource Sciences for Sustainable Development of Japan and Thailand”

2014 年 8 月 23 日から 25 日の日程で、本学農学研究科とタイのキングモンクット工科大学トンブリ校 (KMUTT) 生物資源工学研究科との第 3 回国際シンポジウムが開催されました。今回は、タイ国内の大学で毎年会場を替えて実施されている農業フェアの援助のもと、KMUTT で学位を取得し、タイ南部の Thaksin University に勤務する Dr. Samak Kaewsuksaeng を実行委員長として、Thaksin University で開催されました。

23 日には、本学から参加した近藤 歩 准教授、湊 健一郎 准教授、奥村 裕紀 准教授をはじめ、KMUTT、Thaksin University、Prince of Songkla University、京都府立大学、および宇都宮大学から参加した計 15 名の教員と大学院生が英語で研究報告を行いました。24 日には、Thaksin University の国際交流部門を訪問後、動物科学部門の附属畜産施設、食品科学部門の附属果樹園と Sangyod rice 生産普及施設、動物科学部門の水牛保護事業、および熱帯作物プランテーション運営会社を見学しました。25 日には Nakhon Si Thammarat 県へ移動して現国王のラーマ 9 世によって建設された河口堰を見学しました。

今年度は、5 月にタイ国内で発生した政変の影響で、日本の外務省からタイ国内の複数の地域への渡航に対して危険情報が出される事態となり、シンポジウム会場の Thaksin University へは、危険情報の出ている Songkla 県の Hat Yai 空港を利用する必要がありました。この状況から、当シンポジウムへの本学大学院生の参加は見送られ、教員のみでの参加としました。本学の学生が参加できなかったことは残念ですが、KMUTT や Thaksin University における生物資源に関する研究、タイ南部における農業、および Thaksin University の国際交流に対する取組みなどの一端を実地で知ることができたことに加え、両大学の教員との信頼関係をさらに深めることができました。



Thaksin University で開かれていた農業フェア



歓迎パーティーにて 学生によるタイ舞踊



附属畜産施設の牛舎外観



附属畜産施設の搾乳器



ゴムのプランテーション



ゴムの樹液の採取



附属果樹園にて ロンコンの栽培



Sangyod rice 生産普及施設にて



Thale Noi 湿地の水牛保護事業



Thale Noi 湿地